

# 日蓮大聖人御書全集

じょうどくほん こと

浄土九品の事

新版  
933  
ゝ  
939

じようどくほん こと

# 浄土九品の事

なんぎよう いぎよう しょうどう じようど ぞうぎよう しょうぎよう

難行・易行、聖道・浄土、雑行・正行

しょうぎよう ねんぶつ

諸行・念仏

ほうねんぼう りようけん しょうぎよう ねんぶつ そうたい

法然房の料簡は、諸行と念仏との相対なり

にぎ いち しょうれつ いち なんい

二義あり。一には勝劣、一には難易

はいりゆう

廃立

いち しょうぎよう はい ねんぶつ き

「二に、諸行を廃して念仏に帰せしめんがために、しかも諸行を説くなり」

じょしょう

助正

に ねんぶつ じょじよう しょうぎよう と

「二に、念仏を助成せんがために、しかも諸行を説くなり」

傍正  
ぼうしやう

「三に、念仏・諸行の二門に約して各三品を立てんがために、しかも諸行を説くなり」

「もし善導に依らば、初めをもつて正となすのみ」

「至誠心・深心・回向発願心なり」

「大乘を讀誦す」

「三種の心を發して即便ち往生す」

上品上生  
じやうぼんじやうしやう

「また三種の衆生有り。当に往生を得べし」

「一には慈心にして殺さず。諸の戒行を具す」

「二には大乘方等經典を讀誦す」

法然房の料簡に云わく

「華嚴經・方等經・般若經・法華經・涅槃經・大日經・深

密經・楞嚴經等の一切の大乘經は、『大乘を讀誦す』

の一句に摂め尽くす」

「三には六念を修行す」 六念 仏・法・僧・戒・施・天

上輩

大乘の凡夫

「第一義を解す」

大に値う

上品中生 「善く第一義において義趣を解す」

善根 ぜんこん

法然の料簡に云わく ほうねん りようけん い

「華嚴の唯心法界、法相の唯識、三論の八不、真言の五相成身、  
けごん ゆいしんほっかい ほっそう ゆいしき さんろん はつぷ しんごん ごそうじょうしん  
てんだい いちねんさんぜん みな だいいちぎ げ いっく おさ っ  
天台の一念三千、皆『第一義を解す』の一句に摂め尽くす」

法然の料簡 ほうねん りようけん

上品下生 じょうぼんげしょう いんが じんしん じっかい いんが おさ っ  
『因果を深信す』に十界の因果を摂め尽くす」

中品上生 ちゅうぼんじょうしょう ごかい はつかいないししよかい おさ っ  
五戒・八戒乃至諸戒を摂め尽くす

小に値う しょう あ

四阿含經・俱舍・成実・律宗はこの二品に摂め尽くす  
しあごんぎょう くしや じょうじつ りっしゅう にほん おさ っ

中三品 ちゅうさんぽん

中品中生 ちゅうぼんちゅうしょう はっさいかい  
八斎戒

中輩 ちゅうはい

儒教・道教はこの一品に摂め尽くす じゅきょう どうきょう いっぽん おさ っ

小乗の凡夫 しょうじょう ぼんぷ  
中品下生 ちゅうぼんげしょう

「父母に孝養し、世に仁慈を行う」 ふぼ こうよう よ じんじ おこな

善人 ぜんにん

外典三千余卷 げてんさんぜんよかん  
老子経 ろうしきよう

孝経 こうきよう

観経 かんきよう

下品上生 げぼんじょうしょう

「かくのごときの愚人、多く衆悪を造る」 ぐにん おお しゅあく つく

十念往生 じゅうねんおうじよう

観経に云わく かんきよう い

下品中生 げぼんちゅうしょう

「あるいは衆生有つて、五戒・八戒および具足戒を毀犯す。」 しゅじようあ ごかい はっかい ぐそくかい きぼん

かくのごときの愚人は、僧祇物を偷み、現前僧物を盗む。 ぐにん そうぎもつ ぬす げんぜんそうもつ ぬす

ふじよう　ほう　と　ざんぎあ  
不浄に法を説いて懺愧有ることなし」

げさんぼん  
下三品

げはい  
下輩

あく　あ  
悪に値う

いっこう  
一向□

□□い  
云わく

げぼんげしょう　ごぎやくじゅうざい　ひと　よ　ぎやくざい  
「下品下生はこれ五逆重罪の人なり。しかも能く逆罪を

じよめつ　よぎよう　た　ねんぶつ　ちから  
除滅するは余行に堪えざるところなり。ただ念仏の力の

あ　よ　じゅうざい　めつ　た　ゆえ　ごくあくさいげ  
み有つて能く重罪を滅するに堪えたり。故に、極悪最下の

ひと　ごくぜんさいじよう　ほう　と　とううんぬん  
人のために、しかも極善最上の法を説く」等云々

げばんげしょう  
下品下生

ごぎやくごい ひと  
五逆罪の人

じゅうねんおうじょう  
十念往生

せんちやく い  
選択に云わく

ねんぶつざんまい じゅうざい めつ  
「念仏三昧は重罪すらなお滅す。いかにいわんや軽罪をや。

よぎよう きよう めつ じゅう めつ  
余行はしからず。あるいは輕を滅して重を滅せざるあり。

いち しょう に しょう とううんぬん  
あるいは一を消して二を消せざるあり」等云々

ほけきようとう いっさいきよう  
法華經等の一切經

しゃへいかくほう  
捨閉閣拋

しゃかぶつとう いっさい しょうぶつ  
釈迦仏等の一切の諸仏

てんだいしゅうとう はっしゅう くしゅう  
天台宗等の八宗・九宗

せてんとう  
世天等



浄土三部經・阿弥陀仏よりの外なり  
じようぶさんぶきよう あみだぶつ ほか

安樂集に云わく  
あんらくしゅう い

「いまだ一人も得る者有らず」  
いちにん う ものあ

「ただ浄土の一門のみ有つて通入すべき路なり」  
じようど いちもん あ つうにゆう みち

往生礼讃に云わく  
おうじようらいさん い

「千の中に一りも無し」  
せん なか ひと な

「十は即ち十生じ、百は即ち百生ず」  
じゅう すなわ じゅうしよう ひやく すなわ ひやくしよう

長樂寺 南無  
ちようらくじ なむ

一の弟子 隆寛 多念  
いち でし りゆうかん たねん

後嵯峨法皇の御師  
ごさがほうおう おんし

道観  
どうかん

一の弟子  
いちでし

善慧 小坂  
ぜんね こさか

建仁年中  
けんになねんちゅう

故宇都宮入道  
こうつのみやにゅうどう

修観  
しゅかん

後鳥羽院御宇  
ごことばいんのぎょう

筑紫  
つくし

極楽寺殿の御師  
ごくらくじどの おんし

源空  
げんくう

一の弟子  
いちでし

聖光  
しょうこう

然阿弥陀仏  
ねんあみだぶつ

法然房  
ほうねんぼう

法蓮  
ほうれん

諸行往生  
しよぎやうおうじやう

一条  
いちじやう

覚明  
かくみやう

道阿弥  
どうあみ

嗟峨 さが

聖心 しょうしん

成覚 じょうかく

一念 いちねん

法本 ほうほん

顕真座主 けんしんざす 八人の碩徳 はちにん せきとく

頼兼僧正の御師 らいけんそうじょう おんし

園城寺の長吏 おんじょうじ ちようり

公胤大弐僧正 こういんだいにそうじょう

浄土決疑集三巻を造つて法然房の選択集を破す じょうどけつぎしゅうさんかん つく ほうねんぼう せんちやくしゅう は

随機の諸行もて皆往生をなすべし等云々 ずいき しょぎよう みなおうじよう とううんぬん

こほうちぼうほういんしょうしん でし  
故室地房法印証真の弟子

こうずけきよい もの  
上野清井の者

じょうしんりつしや だんせんちやくにかん つく  
定真堅者 彈選沢二巻を造る。 随機ずいきの諸行しよぎようもて往生おうじようす

しょうしん ちやくてい  
証真の嫡弟 竹中法印たけなかほういん

そうげんほういん  
宗源法印 隆真法橋りゅうしんほつきよう

しょうぎしや やまとのしょう  
証義者 大和莊

しゅんぱんほういん すぎう  
俊範法印 相生

さんとう そうがくとう  
三塔の総学頭

さんぜんにん だいしゆ  
三千人の大衆

聖覚 せいかく

五人の探題 ごにん たんだい

貞雲 じょううん

隆承 りゅうしょう

華嚴宗 けこんしゅう

とがのおの 梅 尾

明恵房 みょうえぼう

摧邪輪三卷を造る。 さいじやりんさんかん つく  
隨機の諸行もて往生す ずいき しょぎょう おうじょう

深密經に依る じんみつきょう よ

法相宗 ほっそうしゅう 三時教もて一代を摂め尽くし、返つて深密經をもつて法華經を下す さんじきょう いちだい おさ つ かえ じんみつきょう ほけきょう くだ

般若經・妙智經等に依る はんによきょう みょうちきょうとう よ

三論宗

さんろんしゅう  
にぞう さんじ いちだい おさ っ かえ みようちきよう  
二蔵・三時もて一代を摂め尽くし、返つて妙智経をもつて法華を下す

華嚴経等に依る

大乘の五宗

けこんしゅう

ごきよう いちだい おさ っ かえ けこんぎよう  
五教もて一代を摂め尽くし、返つて華嚴経をもつて法華を下す

大日経・六はら蜜経に依る

真言宗

しんこんしゅう  
ごぞう いちだい おさ っ かえ だいにちきようとう  
五蔵もて一代を摂め尽くし、返つて大日経等をもつて法華経を下す

天台宗

てんだいしゅう  
しきよう ごじ いちだい おさ っ  
四教・五時もて一代を摂め尽くす

「県の額を州に打つ」

「牛跡に大海に入る」

伝教大師、この義を許すや不や

「夫れ、三時の教は勝義の領解、一了の聞は義生の機宜なり。なお三了を闕く。

何ぞ一代を撰めん」

華嚴云わく、三論云わく、真言等云わく